

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372500704
法人名	社会福祉法人 不動産
事業所名	グループホーム おとぎの国
訪問調査日	平成 20年 3月 28日
評価確定日	平成 20年 4月 8日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4372500704
法人名	社会福祉法人 不動産
事業所名	グループホーム おとぎの国
所在地	熊本県山鹿市鹿本町津袋585番地 (電話) 0968-46-1668

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号ロフティ長安寺ビル402号		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年4月8日

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,700 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	87 歳	最低	78 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田クリニック 山鹿市立病院 菊池中央病院 はとの眼科 森歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の事業所が一本松荘として集約された中にグループホームがあり、その名の通り外観は夢のある温かいメルヘンチックな建物である。中庭や高い天井からは光が差し風も感じられ、明るく開放感があり衛生的で機能的でもある。職員自身が暮らしたいホームを目指し、入居者を人生の先輩として敬い理念に沿ったサービスをゆったりとした時間の中で笑顔と共に提供している。地域との交流を図り、家族や知人とのふれあいや医療連携の取れた安心したホームでの生活を支援している。入居者全員による行事を行い、生活リハビリによる身体機能低下防止にも取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	トイレの臭気については換気扇のフィルター掃除を年2回から4回に増やしトイレ使用後の確認をまめにするにより臭気を感じなくなり改善が図られている。安眠・服薬支援については会議に看護師も加わり、個人の薬についての記録もと、会議・学習会等で話し合うようにしている。家族との関わり地域への機能還元についても推進会議の機能を活発化させ地域とのつながりを深める姿勢が窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で取り組み管理者を経てホーム長がまとめた。職員は自己評価を通じてホームの在り方を再認識する等の気づきを得、意識の向上がみられた。外部評価を待つことなく自己評価を通じて自分達で気づいた改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではホームの活動状況・行事の報告やグループホームブロック会議や外部研修の報告後、各委員の意見・要望等を討議している。市役所からは地域包括便りの配布やモデル市となった認知症地域支援体制の件、他の委員からは認知症についての質問・今後の行事・近隣地区の人を委員にしては等の活発な意見交換がされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や行事参加の際に不安や要望がないか尋ねたり、ベテランの職員や介護支援専門員が苦情・意見の窓口となり、意見を反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会を通じて回覧板の他、寄り合いには地区住民として参加し年間行事の情報を把握し、参加している。運営推進会議を通じて認知症について理解を得た委員より交流の働きかけが多くなってきた。買い物は地元を利用し日頃の近所付き合いを大切に、消防団や法人の行事・伝承館の来訪者との交流もあり、その中から連携が形作られつつある。今後は地域の中でホームとしての多機能性の活用が期待される。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設1年後に理念の見直しを図っており、職員全員で自分の思いを出し合い「地域の中で」の思いを踏まえて事業所独自の理想とする理念となっている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の中で唱和し、日々理念に沿ったケアが実践できているか振り返りながら取り組んでいる。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の保育園・子供会・農高生の訪問やホームから保育園訪問、地区の運動会や祭りへの見学・参加、法人の様々な行事に地元から多数の参加等、双方向の交流が活発に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、管理者を経てホーム長がまとめあげた。職員は自己評価を通じてホームのあり方を再認識する等の気づきを得、改善に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況や外部評価の結果と改善の取り組み等を報告し、委員からの助言・意見を求めると共に地域との交流促進の協議を図り多くの取り組みをしている。会議を通じてグループホームや認知症への理解が得られてきており、今後は区域を超えた委員の参加も議題に上がっている。		

グループホーム おとぎの国

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では情報提供を受けたり意見を協議しており、連携はできている。山鹿市が認知症地域支援体制モデル地域となり法人からも参加し、市との協働を継続しながら質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年に4回「おとぎの国発 ホット便！」を入居者毎に発行し担当者からのコメントを添えて送付し、面会時にはアルバムと共に近況報告をしている。家族からの届け物は本人の喜ぶ姿を写真に撮って送り家族の気持ちに回答している。金銭出納帳は面会時に報告しコピーを渡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事参加の際に意見・要望を出してもらえる雰囲気作りに努めている。		家族同士の集まりの場で意見を出せるような機会の提供が期待されます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えるように努めている。離職の場合は法人施設からの異動で引継ぎをしながら、入居者に自然に馴染んでもらうよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や、ホームでは4週毎の勉強会がある。外部研修の報告は勉強会で発表してもらい全員で共有している。運営者は介護福祉士など資格取得希望者には、そのための実技指導や先輩アドバイスなど自主的に取り組むことへのバックアップ体制が整っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロックの交流会が定期的であり職員2名が交替で参加している。資料の提供・困難事例の研究・研修会等を通じて質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人の施設や医療機関からの入居が多く、家族に説明・見学の上、本人と入居者と全員で食事をとり短時間を過ごしその後の入居となる。徐々に馴染んでもらうための支援も工夫して行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として敬意を払いながら生活を共にし支えあう関係を目指している。料理や生活史から学ぶことは多く、和やかに支えあう関係が窺える。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の観察や会話、耳が不自由な入居者とはボード板やジェスチャーから思いや意向を汲み取り、支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族から希望・要望を聞き、個別経過記録や職員による日々の観察・会話から把握された意向等を基に計画作成者が介護計画を作成している。生活が落ち着くと担当職員が計立案者となり、計画作成者と共に完成させている。作成した計画は本人・家族に説明している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリングを実施し、半年毎に計画の見直しを行っている。状態の変化があればその都度見直ししている。</p>		<p>担当者による的確な介護計画作成のために、介護計画に沿った記録の充実が望まれます。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や往診対応の支援や、面会の家族には宿泊の用意等要望に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医への通院介助の支援を行っている。専門の医療機関へも希望に応じて通院介助を行い、家族へ報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明をしているが、家族からの要望があれば家族・医師・職員で話し合い、家族の希望に沿った支援を行うようにしている。		終末期に関する指針等の整備や職員の研修継続が期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については職員に周知徹底している。一緒に過ごす中での記録の取り扱いは慎重に時と場所を選んで対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが一人ひとりの気持ちや体調次第でやりたいこと・やれることが変わるので見守りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は毎日入居者と相談しながらたてており、調理・盛付・片付け等も一緒に行い、ホームの菜園から野菜を採ってきたり食材の買物にも出かけている。時・季節・料理の方法等の認識のための配慮も見られる。職員も一緒に同じ食事を摂り会話を楽しみながら支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入居者の希望に応じた入浴支援を行い、入浴拒否の方には声かけやタイミングに留意しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや梅干・漬物等これまでの経験を発揮する場面を作っている。また書道クラブ参加・地唄や灯笼踊り等の披露・一緒に歌ったりレクリエーション活動、誕生会や地域の行事参加・ドライブ・買物等楽しみや気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見・茶摘等季節の行事や外食・茶話会・園児訪問等を計画的に毎月行っており、本人の希望にそった外出支援と併せてアクティビティ日誌に記録し、実施経過と評価をし次の計画に反映している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらず、所在確認を心掛けており、外出する様子を察知したら話し掛けながら共に行動している。地元の店での買い物を通じ顔なじみになることにより、地域の見守りにつなげたいと考えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で年2回火災・地震を想定した避難訓練を行い、1回はホームで夜間想定で入居者と共に実施している。地域の消防団や近隣にも協力を働きかけ関係作りもできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の記録から毎月栄養士による専門的アドバイスを受け、栄養バランスに注意している。食事や水分の摂取量は記録に取り全員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四方ガラスの中庭を二つのリビング・居室が取り囲むように配置され、入居者の状況が把握できる安心の住まいである。吹き抜けで自然の陽光の取り入れや換気にも配慮され、各トイレのシャワーの設備や、各所に炭を配置する等、臭気にも配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・寝具・仏壇・TV・家族の写真・飾り物などが持ち込まれている、ホームが用意しているカーテンとベッドカバーも各室柄が違い個性的な部屋作りが家族・ホームから支援されている。居室からも季節感を感じとれる配慮が窺える。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おとぎの国
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県山鹿市鹿本町
記入者名 (管理者)	松本 修一
記入日	平成 20年 3月 11日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「理想とするGHについて思う一言」「自分が住みたくなる家とは」等について、スタッフが出し合い話し合った中で事業所独自の理想とする理念が生まれてる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のGH会議等に理念の唱和を行い、日々のケアも理念に沿って実践できるよう努力しながら取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	GHの玄関と食堂に理念を掲示し運営推進会議や家族への便り等でも理念を公表し発送している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の知人がデイ利用の合間や、近所の知人が時折、野菜の差し入れなど兼ね立ち寄りしてくれている。管理者自ら津袋地区出身であり、地元出身のスタッフも多い。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前から地元の子供会行事、保育園や学生の訪問を受け、花壇作りや料理作り等で交流しており、施設の夏祭り、どんどや、敬老会には家族や近隣の皆さんも多数参加されている。また、今年から(H19年度)は地区の運動会や祭り(催し物)にも見学、参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地元の老人会や料理・サロン時に併設施設の場所提供や見学会・勉強会等を行い貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることにより、別の視点からの見つめ直し、気づきがあり、スタッフの意識向上になっている。また、本来のグループホームの在り方等の勉強になり、さまざまな改善等に向けて取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や外部評価内容等も会議で報告し意見を求めている。地区の運動会や祭り(催し物)への見学、参加はこの会議での話し合いから生まれている。		今後は地元に限らず、近隣3地区の民生委員に会議への参加しを予定しており、地域への貢献、また地域の意見等を取り入れ向上を図りたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	県主催の研修会などに同席し、制度改正時にはサービス内容や対応などを相談し向上に努めている。		山鹿市が県下で認知症のモデル地域となり、当関連施設からも参加しており、知識、理解を深め共に向上に向け取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入所者も居られ、また必要な方にはこれらの制度を活用出来るよう支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。		関連法の勉強と共に、身体抑制等禁止マニュアルで人権尊重の理念に配慮した支援を今以上に行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時共、十分な説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や各家族の面会時に、その様な機会を設け、話しやすい雰囲気です接することを心掛けている。又、意見等があった場合は会議等に向け運営に反映させている。</p>		<p>今後も、より利用者が述べられるような機会を設け、意見等を反映していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年に4回は、利用者のくらしぶりや健康状態を記入した写真入りの便りや帳簿の写し等をご家族に送付し、面会時や電話でも近況報告を行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ベテランのスタッフや介護支援専門員が苦情や意見などの窓口となり、反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>GHでの会議や打ち合わせでは、自由に意見を出し合える時間(雰囲気)がある。GHの理念はスタッフ全員の意見から生まれており、プラン等に活用している意見も多い。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望等に対応出来るように、パート等の活用や勤務変更などを行い調節している。</p>		<p>今後も、利用者や家族の要望に対応できるよう取り組んでいく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を最小限に抑える努力と共に、利用者の方が安心して住み続けて行けるように配慮して行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の11月には社内研修発表会を行った。他の研修会やGHのブロック研修にも積極的に参加している。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地区のGHと定期的に交流し、研修会も行いながら向上に向けた取組を行ってきている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会や食事会、ボーリング大会などを行い、スタッフの気分転換を図っている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の面談などの時に努めて行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階では、特に注意し時間を掛け対話観察等を行い本人が不安にならないような雰囲気、環境を心がけている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	当初に限らず面会時等にも、家族と語り合う(相談する)機会をつくり、要望などがあれば聴き安心されるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族と面談し、要望等をよく聴きながら、(前担当者(ケアマネージャーなど)からの情報があればそれも検討し)サービスを取り入れている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談をし、状態を見ながら、徐々になじんでもらう様に側面からの支援を行い工夫しながら、その人にあったサービスを勤めている。また、馴染みの品物や家具等があれば持ち込みをお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬意の気持ちを忘れずに信頼関係を築くよう努めている。昔からの料理の方法を教わり一緒に作ったり、当時の流行歌の替え歌を教えてもらい、みんなで歌って楽しく過ごすときもある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に写真入りの便りを発送し、来荘時には必ず近況を報告し家族とのコミュニケーションを深めるよう努めている。		夏祭りには家族を招待し一緒に歌や踊りを見て楽しんでもらっている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	前述にもあるが、年に4回以上発送している。写真入りの便りで近況報告、また面会時等での情報交換を行い、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近いところからではあるが古里訪問を行い、また時々、地域の友人、前地区の区長や老人会の人々などの訪問がある。		機会があれば、再度の訪問をお願いし、家族にも伝えていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活を共に行う中で、それぞれの方の相性を把握し、一緒に食事作りや片付け、又、外出やレクを一緒に行うことにより、助け合いや共有の関係が出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関係の必要な利用者や家族の方との関係を断ち切ることなく、退所後も後方支援をしている。		
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの性格、身体能力に応じ本人の意向を第一に考え支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の担当ケアマネや家族からの情報を得て把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日誌や連絡帳に記入し、必ず全スタッフが目を通し把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	話し合いの上で、本人や家族の要望に添えるようなケアプランを作成しスタッフ全員で協力し取り組んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の要望等を聞く機会を持ち、体調や状態の変化に応じての見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADLや体調の変化など個人別に記録しており、変化に応じて介護計画も見直している。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設には多種多様なケアサービス体制が出来ているため、それらを活用し柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	以前から子供会、老人会、保育園、ボランティアなどの協力を得て、地域交流を行ってきている。又、必要であれば、他の機関や地域の人々の協力が得られるよう働きかけている。		今年の4月からはGH運営推進会議に民生委員の参加増を予定しているし、今後も、地域資源との協力を深めていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後も、本人や家族の要望等があれば、他のサービスを利用できるように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	関連施設でともども協働している。		必要に応じ取り組み勉強していく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関へは家族やスタッフが同行し、関係を築き適切な医療を受けられるよう説明を受け報告している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の要望があれば、主治医を通じて専門医の治療を受けられるように支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフには看護職員がおり、また、関係する他の看護師やDrとも相談しながら健康管理、医療面の支援を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携している。入院時も訪問し、医療スタッフとの情報交換を行い本人との面談もし、できる限り早期退院ができるよう努めている。ちなみに、昨年大腿骨頸部骨折の方は、術後2週間で退院され、その後の1ヶ月後の経過報告を入院時の医療機関に情報提供している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と相談の上、方針を決め対応している。終末期もここで！と要望される家族もある。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、本人、家族等とよく相談しながら、要望に応じて出来ることはスタッフ全員で協力し支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居や退去などの移動時には担当ケアマネージャー、医療機関の関係者などと情報交換を確実に行って、住み替えによるダメージの防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりのプライバシーを守ることをポリシーとしており、各々のプライバシーに配慮した寄り添うケアを心掛けて支援している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>GHでは選択メニューの食事を行ったり、外出先の食事では各々が好きな物を注文されている。服装のコーディネートも、ご本人と一緒に考え選んだりしている。</p>	<p>今後もショッピングや趣味活動時など各々選択できる場面を考え心掛けて生きたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>天気や各々の体調に応じて、色んな手伝いや協力を行い身体を動かしたり、又時にはのんびりと日光浴をしたり、新聞や雑誌を読みながらと、各々のペースで過ごされたいことを側面より見守り支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の行きつけの美容室に行く人もいるが、移動理容を利用するときはカットにするか、毛染めをするのかなど決めていく。又、誕生会や外出時の化粧、服装なども相談しながら行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事のメニュー、準備(野菜の切り刻み、食器の手配、他)など相談し、協力しながら一緒に行ってきている。誕生会には本人好みの料理を数品作っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の好みのもを楽しめる様、選択できる様にして、日々行ってきている。誕生日には、好きなもの食べたいものを言っていたら、それに添ったメニューで提供している。又、正月や誕生会には好みに応じアルコール類も準備し楽しく行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、各々のパターンに合わせて、早めに声掛け誘導している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	外出や特別な行事以外の日は、ほぼ毎日入浴の準備をしている。各々声掛けし、できるだけ好みの時間に入浴できるよう支援している。		お風呂が大好きな人は、1日に2度も入浴したいと言い出す時がある。時には、今後の課題として取り組んでいきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本的には昼間のアクティビティ(活動的に過ごす)や入浴などで夜間安眠できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのアセスメントを行い、歌や踊りの好きな人は皆さんの前で披露したり、書くことが好きな人は書道クラブに参加したり などと楽しみ、気分転換ができるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、3名は家族の協力を得て、一部現金を所持されている。ショッピング時には、各々自分達での支払いをお願いしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節折々の花見やドライブ、外食、茶話会などと月に数回行い、又、本人の希望やその日の気分、天気などで散歩に出かけたり、日向ぼっこをしたりと希望にそって楽しんでおられる。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	GHでは外出時に古里訪問も行っている。又、ショッピング、病院受診、お墓参りや知人宅訪問などはできるだけ家族の協力をお願いして行ってもらっている。		本人と家族との協力意識(信頼関係)などの深まるようなことには今後も工夫をお願いしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年の12月には、家族や大切な知人に年賀状を書かれた。便りを書くことが不便な人でもフォローしながら書いていくことで笑顔も見られ喜んでおられた。又、母の日のプレゼントなど贈り物が届いた時には、都度お礼の電話などを行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お友達やお客様がゆっくりと過ごせる様にラウンジにソファを置いてくつろぎのスペースを確保している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の身体抑制等禁止マニュアルを置いている。又、経営トップの考えでもあり、全スタッフは拘束しないケアを理解し行ってきた。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間(7時～20時まで)は玄関も施錠せず開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間の入室は本人の了解を得て行い、利用者の所在や様子を把握する為の見守りも、目くばり気くばりを重点に置きさりげなく安全に配慮しながら行なっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室にある物品はほぼ全員が把握している。はさみ、爪切り、果物ナイフなどは安全を確認しながら、各々が必要に応じて使用している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故およびヒヤリハット報告書に記入し、職員間でも話し合い、又、一人ひとりの状態に応じプランに取り入れ事故防止(再発防止)に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当は職員全員ができるように看護師も配置している。又、GHのブロック間の研修でも行い学んでいる。		今後も講習を受けたり、ドクターや看護師より教わり学習し備えていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体で避難訓練、非常招集訓練を定期的に行ってきたり、以前から地域の消防団や区民の皆さんにも協力が得られよう働きかけてきている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各個人がのびのびと生き生きとした生活ができる当GHの理念に沿っており、家族にも説明し理解を得ている。(但し、体調不良時、負傷回復時など、家族の要望や承諾を得た上で一時期異なる医療対応を行うことがある。)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルチェックで健康状態を確認している。体調変化等のときは、すぐに主治医の指示や看護師の助言を得て、口答や連絡帳で伝達し、徹底したケアが行えるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況を書面で記録しており、効能や副作用等についても会議などで話し合い理解に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりに応じた運動、訓練を行い、水分補給や繊維の多い食物を摂取するなど、心掛けて行ってきたり。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後の歯磨きとうがい、就寝前の入れ歯洗浄を行っている。理解の乏しい人には手ほどきや介助を行いながら清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスに注意し、時には季節感のある食材を取り入れ、工夫しながらおいしい食事を提供している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いを励行し、スーパーソフト水を使用し、清潔に心掛けると共に、高齢者介護施設における感染対策マニュアルに沿って予防や対応を行ってきている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、布巾、食器等の消毒は定期的に行い、天日干しも実施している。食材も冷蔵庫の中を確認し、賞味期限、鮮度を考慮し調理を行い安全に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地が広く、駐車場もあり、近隣の方々も休憩されるようベンチも設置している。玄関も段差が無くスムーズに出入りができる。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が吹き抜けて、二つのリビングがガラス越しに眺められ、明るく衛生面に優れており、自然な光や風、季節を感じて過ごされるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横のベンチでは夫婦で日向ぼっこをしたり、リビングのソファでは気のあった方々で談笑されたりして過ごしておられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	使い慣れた家具やテレビ、布団等を思い思いに持ち込み使 用されている。又、本人が居心地良く、且つ安全に過ごせる よう配慮し、家族とも話しあっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気扇はトイレでは常時使用している。掃除中に限らず、日 に数回は室内の空気を入れ換えたりし、こまめに外部との温 度調節を行っている。		冷暖房は器具使用を続けるのではなく、少しは衣類で調 節したり、くつろぐ場所を移動したり、身体を動かす(運動を して)暖まってもらうなど工夫し調節してきている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	玄関、床部分等は段差もなく車いすでもスムーズに移動でき るし、要所要所には手すりが設置してあり安全に一人で歩行 できる。		手すりは起立訓練、歩行訓練等にも利用し、運動と足腰の 強化を心掛けている。又、広めのテーブルはボール遊び や各種のゲームなどにも活用している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	3カ所のトイレは一目でわかる位置に設計しており、各々の居 室のドアには氏名の他に、スタンドガラスで個別の表示を 行っている。		迷いや失敗の時には、さりげなくサポートしており、次の会 議などで対処や改善方法などを話し合っている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外には布団や洗濯物の干し場があり、玄関前の芝生の庭や ベンチは外気浴や散歩に適している。天気の良い日には庭 の花々をながめながら茶話会や弁当開き(食事会)を行って いる。		建物の裏庭部分には、葡萄とプラムの木や野菜を植えて いる。各部屋からも成長がわかり、収穫時を楽しみにして おられる。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

GHの建物内部は、明るく開放感があり、しかも衛生的であり、機能的にも優れている。又、ホーム内のサービスは、理念に沿って高齢者が暮らしやすく、ストレスを感じないようなゆっくりとしたリズムで、時間を掛けて提供されている。家族やなじみの知人との交流はフリーで、近くに病院もあり医療面での不安も少ない。スタッフ自身が高齢者となって住みたいと思う理想的なグループホームが、ハード面ソフト面共に実践されている。